

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	15-317	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Postdiagnostic intake of one-carbon nutrients and alcohol in relation to colorectal cancer survival. 1-炭素栄養分とアルコールの癌診断後の摂取量と結腸・直腸癌生存率		
執筆者		
Lochhead P, Nishihara R, Qian ZR, Mima K, Cao Y, Sukawa Y, Kim SA, Inamura K, Zhang X, Wu K, Giovannucci E, Meyerhardt JA, Chan AT, Fuchs CS, Ogino S.		
掲載誌		
Am J Clin Nutr. 2015 Nov;102(5):1134-41. doi: 10.3945/ajcn.115.115162. Epub 2015 Sep 30.		
キーワード		PMID:
結腸直腸癌; 微量元素; 公衆衛生; 生存		26423386
要 旨		
<p>背景： 観察的なデータは、1-炭素代謝に関係する栄養分の摂取量が結腸・直腸の癌と腺腫のリスクと逆に関係していることを示唆した。対照的に、若干の前臨床研究と心血管および化学的予防試験からの結果は、葉酸の高摂取量がすでにできている腫瘍の異常増殖の進行を容易にし、発癌性を促進する可能性があるという懸念を引き起こした。</p> <p>目的： より高い総葉酸摂取量（食物葉酸と強化食物と補助食品からの葉酸を含む）、または他の1-炭素栄養摂取量が、結腸・直腸癌の診断の後に生存率を低下させることと関係するかもしれないという仮説を検証する。</p> <p>デザイン： 我々は、次の2件の米国の前向きコホート研究で、直腸および大腸癌症例を使用した：看護師健康調査と Health Professionals Follow-Up Study。</p> <p>隔年の質問書は、病歴と生活様式因子（喫煙とアルコール消費を含む）に関する情報を集めるのに用いられた。ビタミンBとメチオニンの摂取量は、食物・摂取頻度アンケートに由来した。腫瘍の分子的特徴（マイクロサテライトの不安定性、CpG 島メチル化表現型、KRAS、BRAF、PIK3CA 突然変異、長い散剤ヌクレオチド要素1のメチル化レベル）に関するデータは、症例のサブセットを利用した。多変量Cox比例危険回帰モデルを用いて、1-炭素栄養分の診断後摂取量によって、結腸・直腸癌による死亡率を評価した。</p> <p>結果： 追跡期間の中央値は14.9年で、ステージI~IIIの1550例の結腸直腸癌症例において、641例の死亡を記録した。176例が結腸直腸癌に特異的な死亡であった。葉酸または他の1-炭素栄養分の癌診断後の摂取量と結腸・直腸癌による死亡率（多変量P-傾向>0.21）の間に統計的に有意な関連は観察されなかった。探索的分子病理疫学的生存率分析において、1-炭素栄養分またはアルコールと調査した腫瘍分子生物マーカーとの間にいずれの有意の相互作用もなかった。</p> <p>結論： 1-炭素栄養分の診断後摂取量がより高いことは、ステージI~IIIの結腸・直腸癌の予後と関係しない。本研究の結果は、結腸・直腸癌診断の後の葉酸のより高い摂取量が癌関連の死亡リスクを増すという仮説を支持しない。</p>		